



Save the Children

セーブ・ザ・チルドレン ニュースレター

March 2019 No.74



創設から100年

セーブ・ザ・チルドレン 創設100年の物語

日本の子どもの貧困問題 その解決を目指して



セーブ・ザ・チルドレン 創設100年の物語

セーブ・ザ・チルドレンは今年、1919年にイギリスで創設されてから100年を迎えます。第一次世界大戦で社会が荒廃した時代に、敵味方の区別なく子どもたちを守るために立ち上がった、創設者エグランタイン・ジェブの物語をお届けします。

写真:1920年代、セーブ・ザ・チルドレンから食料支援を受けるロシアの子どもたち



創設者エグランタイン・ジェブ

「敵国」の子どもたちを助ける

セーブ・ザ・チルドレンの歴史は、第一次世界大戦により荒廃した1910年代のヨーロッパにさかのぼります。当時イギリスは、敵対するドイツやオーストリアの海上輸送路を封鎖しており、食料の供給が断たれた国々では、多くの子どもが飢餓に陥っていました。「敵国」の子どもを助けるなど考えもされなかった時代に、イギリス人のエグランタイン・ジェブは、妹ドロシーとともに、この惨状を社会に伝えようと奮闘していました。1919年4月、ジェブはこう書いたチラシを、ロンドン中心部のトラファルガー広場で配りました。

“ 私たちの国が行っている封鎖が、何百万人もの子どもの命を奪っています ”

チラシには、飢えて衰弱した子どもの衝撃的な写真も掲載していました。この行為によりジェブは逮捕され、裁判では有罪判決が下されました。しかし、検察側の弁護人はジェブの行動に心を動かされ、「5ポンドの罰金は自分が支払う」と申し出たのです。これはセーブ・ザ・チルドレンへの最初の寄付になりました。そして1919年5

月、会場いっぱいの支援者の前でジェブが支援の必要性を訴え、「セーブ・ザ・チルドレン基金」の活動が始まりました。

子どもたちに食料を

ジェブたちは、食料難の中で飢えに苦しむ子どもたちのために資金を集めることに奔走しました。ドイツ、オーストリア、フランス、ベルギー、ハンガリー、バルカン半島、そしてトルコのアルメニア難民の子どもたち。ジェブは、これらの子どもに食料や教育の支援を行っている団体に資金を提供しました。



その後、大規模な飢饉に見舞われたロシアの子どもたちへの支援を始めました。全国紙に全面広告を出すのみならず、助けが必要な子どもたちの映像を映画館で上映するなど、ジェブたちはあらゆる方法で寄付を呼びかけます。その結果、1921年から翌年にかけて、セーブ・ザ・チルドレンはロシアで30万人に上る子どもたちの命を支えることができました。

「子どもの権利」の理念を世界へ

これらの活動を通してジェブは、寄付をする一部の人だけでなく、子どもに関わるすべての人が子どもに最善のものを与えなければならない、との思いを強めます。その理念をまとめ、「ジュネーブ子どもの権利宣言」を起案しました。第一次世界大戦で多くの子どもの命が奪われたことへの反省として、この宣言は国際社会に受け入れ



ロシアにおける食料支援(1920年代)

られ、1924年、国際連合(国連)の前身である国際連盟で採択されました。ジェブはその4年後、病により52歳でその生涯を閉じました。

彼女が起案した「ジュネーブ子どもの権利宣言」の理念は生き続け、第二次世界大戦を経てつくられた「子どもの権利条約」と引き継がれました。この条約は1989年に国連総会で採択され、現在、日本を含む196の国と地域が批准。人権条約としては歴史上最も多くの参加を得た条約となっています。

私たちセーブ・ザ・チルドレンは、ジェブの思いを受け継ぎ、今日も世界中の子どもたちの権利の実現のために活動を続けています。



1919年、創設当時のセーブ・ザ・チルドレン事務所

セーブ・ザ・チルドレン 100年の歩み

第一次世界大戦後の混乱の時代、栄養不良の子どもたちを援助するため、エグランタイン・ジェブが**セーブ・ザ・チルドレン**を創設しました。



1930年代初頭、**アフリカ**における初めての活動として、子ども福祉センターをアビシニア（現在のエチオピア）に設立しました。1935年にアビシニアが軍事侵攻された際は、避難した人々を支援しました。



第二次世界大戦中、イギリスの主要都市で、防空壕の中に子どもたちの遊び場を設置するなど、戦争の影響を受ける子どもたちを支える活動をしました。



1980年代を通じて、セーブ・ザ・チルドレンは**母子死亡率削減**に向けた世界的な運動の最前線で活動したほか、**HIV/エイズ**に関する啓発・予防・治療プロジェクトを立ち上げました。



1984年に**エチオピア**を襲った**飢饉**に関し、最初に警鐘を鳴らしたのはセーブ・ザ・チルドレンとそのパートナー団体でした。緊急支援として、穀物や粉ミルク、砂糖、油などを現地に輸送し、**毎日7,000人の栄養不良の子どもたちに食料を提供**しました。

イギリスのセーブ・ザ・チルドレン総裁であったアン王女から日本での設立の提案を受け、1986年、大阪で**セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン**が設立されました。フィリピンとタイの教育分野での活動からスタートし、**2003年からは日本国内の子どもたちへの活動**も行っています。



1919年 1920年代 1930年代 1940年代 1950年代 1970年代 1980年代 1986年 2010年代

エグランタイン・ジェブが原案を起草した「**子どもの権利宣言**」が、1924年に国連の前身である国際連盟により採択されました。

朝鮮戦争により多くの子どもが路上生活を強いられました。1954年、プサンに**診療所**や**牛乳配給センター**、**子どもの遊び場**を設置し、子どもたちを支えました。

1975年、ベトナム戦争後初めてベトナムで活動再開を許された国際援助機関はセーブ・ザ・チルドレンでした。

2014年に**エボラウイルス**が史上最悪の規模で蔓延した際、シエラレオネ、ギニア、リベリアにおいて、コミュニティーヘルスワーカーの育成や、保健医療サービスの提供、治療センターの運営を行い、**200万人以上の子ども**を含む**460万人**の人々を支援しました。



セーブ・ザ・チルドレンの最初の大規模な支援活動として、**飢饉に見舞われたロシア**で子どもたちに食料支援を実施。30万人以上の子どもに食料を届けました。



1970年代に、活動は**6つの大陸の120ヶ国**へと広がりました。



日本の子どもの貧困問題 その解決を目指して

現在、7人に1人の子どもが相対的貧困下にある日本。経済的な困窮は、教育や医療など、子どもの生活や成長に関わる機会に大きな影響を与えています。セーブ・ザ・チルドレンが行った調査から見てきた実態と、貧困問題の解決に向けて取り組んでいる活動をお伝えします。

過去1年の間に、
子どもの病気や怪我について
受診した方がよいと思ったのに、
実際には受診しなかったことがある。

19.1%



過去1年の間に、
経済的な理由で
子どもの文具や教材の購入費を
支払えないことがあった。

30.8%



経済的な理由で、
子どもに進学を諦めさせたり
学校を中退させたりしたことがある。
または今後はその可能性がある。

49.6%



過去1年の間に、経済的な理由で
家族が必要とする食料を買えない
ことがあった。

61.4%



セーブ・ザ・チルドレン「給付型緊急子どもサポート
～新入学応援キャンペーン2018～」の受給世帯
383世帯への調査から

“貯金を切り崩し始めたのは、つい最近です。子どもの小学校入学に必要なものを準備するのに7万から8万円ほどかかり、どうしても普段の生活費ではまかなえませんでした
—30代女性、小学1年生の母親

“今も経済的な理由で家族が必要な食料を買えないことがよくあります。自分が食べなくても、子どもと、仕事をしている夫を優先にご飯を多く食べてもらっています
—50代女性、子ども3人の母親

“お金のことについて不安です。あまり母に負担はかけたくありませんが、私は大学に進学したいというジレンマに陥っています
—高校生

これらは、セーブ・ザ・チルドレンが、経済的に困難な状況にある子どもたちを対象に提供している給付金の受給世帯からの声です。経済的な困窮が、教育や医療など、子どもの生活や成長に関わる機会にさまざまな影響を与えています。

生活や成長に 影響を受ける 子どもたち

現在、日本では子どもの相対的貧困率は13.9%*つまり7人に1人の子どもが相対的貧困下にあり、その数は日本全体でおよそ280万人です。7人に1人の子どもが、ほかの子どもが通常得ているものを得られない、通常できていることができないなど、その社会の一般的な生活水準に満たない状態の中で暮らしています。

家庭にのしかかる負担

こうした状況の中、家庭が負担する、制服や文具、部活、給食など学校に関わる費用は、公立小学校では1人当たり年間約10万円、公立中学校では年間約18万円とされ**、就学にかかる費用が家計の大きな負担になっています。この背景の一つには、日本では教育への公的支出の割合がほかの先進国と比較して

低いなど、子どもへの社会保障政策が十分でなく、子どもの成長に必要な費用を家庭が負担する割合が多いことがあります。さらに、災害が起こった地域では、被災による家計の悪化で、生活や成長に影響を受けている子どもたちがいます。

子どもの権利を守るために
2030年までに世界で達成を目指す「持続可能な開発目標(SDGs)」では、世界からあらゆる形の貧困を終わらせることが、1番目の目標として掲げられています。途上国における「絶対的貧困」(生きていくために必要な食べ物すら手に入れないほどの貧困)のみならず、日本のような先進国における「相対的貧困」の問題を解決することも急務となっています。貧困は、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」をさまざまな側面から脅かします。すべての子どもが環境に左右されず、成長や学びの機会を持てるように、セーブ・ザ・チルドレンはこれからも子どもの貧困問題の解決に向けて取り組んでいきます。

*すべての子どものうち、等価可処分所得の中央値の50%未満で暮らしている子どもの割合

**厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」

***文部科学省「平成28年度子供の学習費調査」

日本における子どもの貧困問題の解決を目指してーセーブ・ザ・チルドレンの取り組み

直接支援

経済的に困難な状況にある子どもたちへ給付金を提供



給付金で新入学をサポート

子どもたちが環境に左右されず、成長や学びの機会を持てるよう、経済的に困難な状況にある子育て世帯を対象に、新入学に必要な制服・運動着の購入費用の一部を給付しています。

2018年は、岩手県山田町と宮城県石巻市で、小学校・中学校・高校に入学した子ども415人に支援を届けました。また、2016年に熊本地震に見舞われ、特に大きな被害を受けた熊本県益城町・御船町では、熊本地震緊急・復興支援の一環として、中学校・高校に入学した子ども826人に給付金を届けました。

受給世帯からの声

娘は夢を実現し、自分も誰かを支援できる大人になりたいと話しています。本当にありがとうございます。

(宮城県・高校1年生の保護者)



直接支援

ひとり親家庭への支援



保護者向けイベント

ひとり親家庭の保護者が必要とする情報や、相談の場を得られるよう、これまでに、ファイナンシャルプランナーを招いたマネープラン講座などを開催しました。



子ども向けイベント

ひとり親家庭の子どもが多様な機会を得られるよう、美術館見学や水族館見学などのイベントを実施してきました。

社会啓発

調査やシンポジウムで課題を社会へ伝える



調査

給付金受給世帯を対象に、アンケート調査を実施。その結果を社会に発信するとともに、政策提言につなげています。



シンポジウム

子どもの貧困問題解決に向けたシンポジウムや勉強会等を、2018年は東京と宮城で計6回実施し、のべ261人が参加しました。

参加者の声

地元の子ども条例に貧困対策がきちんと盛りこまれるよう、市民としても活動していきたいです。

政策提言

子どもの貧困対策の拡充に向けた政策提言

調査結果などをもとに、国や自治体に対し政策提言を行っています。

セーブ・ザ・チルドレンからの提言

※抜粋

■ すべての子どもの権利を保障するために、**教育をはじめとした子どもに関する公的支出を増やす**ことが必要です。

■ 公的な子どもの貧困対策の一つである「**就学援助制度***」について、周知や申請方法の改善のほか、内容の拡充が喫緊に必要です。

*小中学生の子どもがいる経済的に困難な状況下の家庭や震災で被災した家庭に対し、市町村が学用品費や学校給食費などを援助する制度。

■ 行政が**高校生の生活実態を把握**し、公的な給付金の改善を行うとともに、高校生の状況に合わせた多様な支援を講ずることが必要です。

調査結果と提言の全文は調査報告書に掲載しています。ウェブサイト「子どもの貧困問題解決事業」のページからご覧ください。

www.savechildren.or.jp/japan/childpoverty

セーブ・ザ・チルドレンは子どもの声を聴きながら貧困問題の解決に取り組めます。

給付金提供などの支援を行うとともに、**子どもたち自身が、自分に関わる問題について思いや考えを伝えられる機会を増やして**いきます。

給付金を受給した高校生の声

高校生が入りやすい、勉強できる場所ができればいいです。
(高3・女子)

母子家庭でも、もっと色々な進路を選択できればいいと思う。
(高2・男子)

石巻はまだたくさんの方が、住むところや仕事に困っているので、若い人たちが支えていく地域にならなければならない。
(高1・女子)

近くで読書や自習のために無料で時間を過ごせる施設があったらいい。今は近場にそのような場所がなく、あったとしても交通の便が悪い。
(高2・女子)

PARTNERSHIP INFORMATION

Interview

子どもたちを大切にする
プロサッカークラブとして。

KASHIWA
Reysol

株式会社日立柏レイソル 運営部部长 河原 正明 様



「強く、愛されるクラブ」をつくる

プロサッカークラブである柏レイソルの使命は、「強く、愛されるクラブ」をつくることです。そのための大きな要素の一つとして、子どもを大切にするという思いがあります。柏レイソルは、プロ選手だけでは成り立ちません。子どもたちを将来の選手として育成すること、また、地域の子どもたちと関わることを通して、子どもを大切にしようという考えがクラブに根付いています。

子どもとの向き合い方を考える機会を

2011年、柏レイソルはJ1リーグで優勝しました。当初は、その賞金を社会に還元しようと、セーブ・ザ・チルドレンへの支援を始めました。2012年にベトナムでの教育支援を開始し、2015年からは国内の子ども虐待の予防活動を支援しています。その一環として、セーブ・ザ・チルドレンと「たたかない、怒鳴らない子育て」の講座を、地域の方や、子どもを指導するコーチへ行っており、とても好評です。サッカーの指導だけでなく、子どもとの向き合い方を考える機会を提供しているのは、柏レイソルらしい斬新な活動だと思います。



活動を広く伝えるために

チャリティマッチでは、選手の等身大パネルなどを通して「たたかない、怒鳴らない子育て」のメッセージを伝え、多くの方が楽しみながら参加してくれました。これからも柏レイソルを通して、より多くの方たちにセーブ・ザ・チルドレンの活動を知ってほしいと考えています。



Information

innisfree

「あたたかな気持ちをシェア」
クリスマスキャンペーンを通して支援



韓国で生まれた化粧品ブランド・イニスフリーのクリスマスキャンペーン「グリーンクリスマス」は、あたたかな気持ちをシェアしあうという思いが込められたキャンペーンです。2018年は日本でこのキャンペーンが初めて実施され、「グリーンクリスマス」の限定商品の売り上げの一部を、日本の子どもたちのための活動にご寄付いただきました。

阪急阪神ホールディングスグループ

「子どもたちが夢を持って
健やかに成長することを応援したい」



社会貢献活動「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」の一環として、第一ホテル東京のクリスマスチャリティイベントをはじめ、京都音楽博覧会でのチャリティ抽選会や、阪急電鉄の駅などにある店舗で販売するおにぎりの売り上げの一部のご寄付、従業員の方々の書き損じハガキ寄付プログラムにより、ご支援いただきました。

FICELLE inc.

「赤ちゃんの誕生や健やかな成長、
家族の幸せへ想いをのせて」



ベビー、子ども用品企画販売のフィセルからは、「世界の文化に学び、家族を想う」をコンセプトに、世界各地の文化や民芸品などをヒントに作られたベビー用品の「BOBO」ブランドの売り上げの一部を2009年から継続してご寄付いただいています。子どもたちの健やかな成長のための幅広い活動に役立てられています。

スタッフの一日

ベトナム駐在員 瀬戸口 千佳



少数民族が多く暮らすベトナム北部にて、農業と保健の2本柱で子どもたちの栄養改善を目指す活動を行っています。

経済発展著しいベトナムでは、都市部と農村部の経済格差が大きく、特に少数民族の人々は厳しい生活を送っています。この事業の対象は、伝統的な生活様式を守りながら山岳部に暮らすモン民族などの人々。色鮮やかな女性たちの服装が印象的です。



「シンチャオ!」(おはよう)

通常は都市ハノイの事務所に勤務し、事業地の村へは泊りがけで出張します。出張時の1日の例をお伝えします。

世帯訪問 08:30

妊婦や2歳未満児のいる家庭をチームで訪問し、研修で学んだ家庭菜園や鶏の飼育法が実践されているかなど、話を聞きます。



12:00 昼食



牛肉や香草をライスパーパーで包んでいただく料理や、厚揚げのトマト煮などを、チームや村の事業関係者と食堂で囲みました。

事業進捗会議 13:30

行政関係者や村の代表など事業に関係する人々が四半期に一度集まり、事業の成果や改善点を話し合います。



仕事の後

チームの皆と晩御飯。食堂でサッカー観戦し盛り上がることも。宿で一日を終えます。

冬募金へのご協力 ありがとうございました

昨年12月に実施した冬募金には、のべ1,754件、19,888,584円のご寄付をお寄せいただきました。また、57名の方が新たに継続寄付「SCサポート」を始めてくださいました。ご寄付は支援を必要としている子どもたちのために、大切に活用させていただきます。



全国各地の「終活セミナー」にお伺いしています

昨年、各自治体の社会福祉協議会が行う「終活セミナー」で、セーブ・ザ・チルドレンの活動紹介を行っています。これまでに東京都文京区、横浜市青葉区、高知市にお伺いしました。写真は、高知市での様子です。皆さん熱心に聞いてくださり、関心の高さがうかがえました。



遺贈・相続・香典寄付のご案内

おひとりおひとりの「想い」を実現するため、オリジナルの遺贈・相続寄付プランをご案内しております。

■ 資料のご請求、お問い合わせは

TEL 03-6859-0068 (平日9:30~18:00)

japan.legacy@savethechildren.org

ACジャパンの支援による広告が話題になっています

テレビCMや新聞、雑誌、交通機関などで、ACジャパンによるセーブ・ザ・チルドレンの広告が展開中です。ツイッターなど、ネット上ではこのような声が聞かれました。



セーブ・ザ・チルドレンの「この問題は本当に問題です」心に刺さる。



広告はこちら

この広告にドキッとした。生まれた場所でこんなに差が出てしまうなんて。



電車中吊り

単なる算数の問題かと思ったら、そうじゃなかった。この問題は現実だ。

サラさんに勉強できる時間はないのか…。

近くに学校が必要なんだ。

いい広告。確かにこれは大問題。

解くことで社会問題を考えさせられる。

「この問題は、本当に問題です。」というコピーがすごい。



紛争で、災害で、学ぶ機会を奪われている子どもたちがいます。

支援活動にご協力ください

例えば約5,000円で、1年分の教科書や制服、文房具を提供できます。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

ご自宅に眠っていませんか？ 集めて、送って、気軽に支援！



未投函の官製ハガキ

余った年賀ハガキや書き損じたハガキなど



未使用切手

※消印が押された使用済み切手は対象外です。



同封の封筒でお送りください。あなたの気持ち、届けます。

編集後記

セーブ・ザ・チルドレンの創設者エグラントイン・ジェブ、イギリスでは伝記“The Woman Who Saved the Children”が販売されています。日本でもネットで購入することができるので、ジェブの人生により深く触れてみてはいかがでしょうか。(編集担当:高橋)



Save the Children

www.savechildren.or.jp

セーブザチルドレン 検索



ミックス 責任ある木質資源を使用した証 FSC® C020246

セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む世界120ヶ国で子ども支援活動を行う、民間・非営利の国際NGOです。子どもの権利が実現された世界を目指し、100年にわたり活動しています。

*この冊子の印刷におきましては、協和オフセット印刷株式会社にご支援いただきました。

この冊子は、適切に管理されたFSC®認証林からの原材料および、再生資源やその他の管理された原材料から作られた、環境配慮型のFSC®認証紙を使用しています。



Save the Children

セーブ・ザ・チルドレン ニュースレター No.74 2019年3月発行 発行元:公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F ご支援に関するお問い合わせ: 03-6859-0068(平日9:30~18:00)